

地域機能の協働再編

—放課後等デイサービスの観点から見た

地域と福祉のマネジメント —

氏 名 山本 大介

指導教員 平田 エマ

要旨

少子高齢化が進むにつれ公的なサービスだけで地域住民や要支援者の生活を支える事が難しくなっている。それを見据えて行政は1980年代に高齢者の支援を目的とした総合的なサービスを地域で提供する仕組みづくりとして地域包括ケアシステムの構築を打ち出してきたが、地域ごとに果たす役割が明らかになっていない為、実態的に進んでいる地域が少ない。2018年には高齢者だけではなく地域住民が安心や安全に暮らしていくため地域共生社会として指針を示してきたが、具体的に誰が担いコーディネートを行うかなど明確になっておらず存在している地域とそうでない地域に分かれ今に至っている。

こうした背景の中で新たに地域での取り組みや方や地域と福祉を総合的にコーディネートする機能を構築する必要があると考える。したがって、本研究では、社会福祉法人が地域と福祉をマネジメントすることで、町の安心、安全に寄与することを想定し、その実現に向けた地域における仕組みや各ステークホルダーが果たすべき役割について考察する。

地域住民へアンケートとヒヤリングを行った結果、改めて地域住民の主体性と動機付けが必要になるという気づきを得られた。S法人は社会福祉法人として公益性と公正性を最大限活用し、地域へ新しいコミュニティ、居場所作り、交流スペースの提供を行うなど動機付けを行う。その上で、日々、地域住民同士が交流でき、地域活動においては、代弁機能、調整機能を果たす。地域と福祉が協働することで地域住民の主体性と選択性の中で、自己実現の機会を作れる場を設け、より安心で安全に生活を送っていけるような環境づくりを後押しすることが可能となる。